

① 栄区危機管理・地域防災担当 武内係長

(武内係長)

栄区危機管理担当係長しています、武内と申します。よろしくお願いします。

(インタビュアー)

武内さん、今日はよろしくお願いいたします。豊田小学校での訓練が始まるのですが、この豊田小学校での地域行動防災訓練、他の訓練と比べて特別なところであったり、今回の目玉となるところを教えてくださいませんか？

(武内係長)

はい。地域防災拠点の訓練で消防の方か地域の方が参加されるのは通常通りあるのですが、ここの拠点に関しては小学校の生徒さんが、学校の協力も得てですね、1年生から6年生まで皆さん参加される。地域と学校が一緒になって参加されるっていうところが少し特別なところかなというふうに思います。

(インタビュアー)

ここまでのこの地域の皆さんの動きを見て、区役所の皆さんとしてはどう思っていますか？

(武内係長)

そうですね、やはり拠点によっては委員長の指示があって動いていくところが多いんですけども、この拠点に関しては委員長の指示なくても、皆さんもそれぞれ分担が元々わかれているようで指示なしで、皆さん素早く動いていらっしゃる、これはおそらく元々充実した訓練をされていて自分がやるべきことを認識されているのでこういった行動ができていますかなというふうに思います。

(インタビュアー)

ありがとうございます。今、訓練前にインタビューを行っていますが、今日は訓練を通じて学生の皆さんそして地域の皆さんにはどのようなことを学んで感じて帰ってもらえたでしょうか？

(武内係長)

はい、地域防災拠点というのはもちろん、行政も協力はするのですが、防災拠点は地域の皆様が運営する避難所になります。避難所に避難される方もお客様ではなくて、皆様が協力し合って運営していくものである、「自助共助」これを意識して頂きながら、学校と地域の方々協力し合っていかなければならないというところを感じ取って頂けたらと思います。

(インタビュアー)

ありがとうございます。

②豊田小学校 垣崎校長先生

(垣崎校長)

はい、こんにちは。豊田小学校の校長の垣崎です。

(インタビュアー)

今日の訓練をご覧になっていかがでしょうか？

(垣崎校長)

改めてですね、子供たちが地域に守られて、また地域の方々と一緒に防災訓練をやる、その意味を改めて大事だ
なってことを感じました。ありがとうございます。

(インタビュアー)

今日は取り組む子供たちの様子は先生の目にどのように映っていましたか？

(垣崎校長)

もう本当に驚きと感動とまたおそらく感謝の気持ちも心の中から湧き上がってきたんじゃないかなと思います。

(インタビュアー)

小学校では普段どのようなことを防災訓練をしているのか？たくさんあると思うんですが、一つ紹介していただけますか？

(垣崎校長)

そうですね、どの学校も多分このキーワードを言っているんじゃないかなと思うんですが、「自分の命は自分で守る」と。実は
豊田小では、私の方から更に「自分たちの命は自分たちで守り合う」ということを伝えています。やはり自分の命だけでなく
周りの子供たち、お互い気になるところ、声を掛け合って守り合うことの大切さ、そして今日の防災訓練を、お家に帰って、
家族の方にもその大切さを伝えていってほしいなと思います。

高学年になれば、やはり最上級生にもなりますし、家族にとってもオピニオンリーダーとなって「家族の命を守る」、そんな意
識に目覚めて欲しいなって思います。

(インタビュアー)

ありがとうございます豊田小学校垣崎校長先生にお話を伺いました。ありがとうございました。

(垣崎校長)

こちらこそ、ありがとうございました。

③ 栄区危機管理・地域防災担当 武内係長

(インタビュー)

訓練も終わりに差し掛かっていますが、ここで今一度、栄区総務課危機管理担当係長武内さんにお話伺います。今日、訓練をご覧になっていかがですか？

(武内係長)

はい。やはり学校の皆様が、こんなに意欲的に取り組んでもらうような訓練って中々ないので学校の協力あって、また毛利会長をはじめ地域の皆様と、元々地域ぐるみで協力し合っているというのが本当伝わって来て本当に素晴らしい訓練だったなと思います。

(インタビュー)

ありがとうございます。改めて地域の力を感じる訓練となりました。武内係長ありがとうございました。

(武内係長)

ありがとうございました。

④ 栄区危機管理・地域防災担当 武内係長

(インタビュー)

ではこの豊田だけでなく、今日区役所の方から地域の皆さんに気をつけていただきたいところ、防災面でありますでしょうか？

(武内係長)

はい、この避難所というのは基本的には自宅が倒壊、地震で「自宅が倒壊してしまって住むことができなくなった」そういった方が、避難する場所になっております。

なので、自宅に住める方は防災拠点には避難せずに、只そうは言っても備蓄とかトイレパックとかそういったものを用意していただかないと、ご自宅で過ごすこともできなくなると思います。なので、皆様でそういったときも長期の避難生活が強いられるような状況のときは自宅でも長く過ごせるように、備蓄等を充実して頂ければと思います。

(インタビュー)

改めてコロナ禍になってどうしても避難所っていうとその避難する場所、逃げる場所っていうふうに考えてしまうことも多いですが、自宅でもちろん過ごすっていうのも、アリなのですよね？

(武内係長)

そうですね、基本的には自宅で過ごすことができなくなった方が防災拠点に避難する、それをまず認識して頂きたいと思います。ただ、ご自宅がどうしても難しい場合は、防災拠点であったり、あるいはご親戚の処や御友人の処、そういった処に避難するというやり方もございます。やはりどうしても防災拠点のスペースは限られてきます。そういったところを、先ずは考慮して頂きながら避難行動をしていただければと思います。